

佳作

『ありがとう』

千葉県 安房高等学校二年 鈴木 夏乃子

「ありがとう」という言葉だけでは足りないぐらいの感謝の気持ちを持ったことがあるでしょうか。「ありがとう」だけでは相手にたくさんの感謝の気持ちが伝えきれないと感じ、もどかしい思いをしたことがあるでしょうか。

愛情を表すために用いる言葉はいくつかあり、それぞれに段階があります。普通のものより心が引きつけられるものは「好き」。好きなものの中でもたいへん好きなものは「大好き」。大好きなものの中でもかけがえのない大切なものは「愛する」といったように、愛情の度合いは相手に言葉で伝えることができるのです。では、感謝の気持ちを伝えたい時はどうでしょう。どれほど感謝しているのかを伝えられる言葉を見つけることはできませんでした。私たちは「ありがとう」の言葉では伝えきれない想いをどうやって表現したらよいのでしょうか。私は小学一年生の頃からバスケットボールを続けてきましたが、今年の春、膝に大ケガをしてしまいました。

医者には手術を勧められましたが、私はなかなか決心できませんでした。手術をすれば復帰に十ヶ月かかるからです。手術をしなかった場合は、復帰は早くできてもパーセントの力でプレーすることはできないと言われてました。目の前が真っ暗になり、現実を受け止められずただただ泣いていました。

中学時代の顧問の先生がどこからか私の怪我のことを聞きつけ、毎日お忙しいのに時間を作ってくださいました。先生は

「マイナスな面ばかりではない。その辛さや苦しみがいつか自分の強さになることがある。」

とおっしゃいました。私は、できなくなったことばかりを数えるのをやめて、今までできなかったことや見えていなかったものを見つけられるよう努力をしたと思います。先生のおかげで手術をする決心ができ、今は少しずつでも怪我をしたことをプラスに変えようと前向きに取り組むことができるようになりました。

部活の仲間でもあり、クラスメイトでもある仲の良い友人は、いつも私のそばにいてくれました。困っている時は一番に気付いて助けてくれ、母が迎えに来るのを待っている、当たり前前のことのように二時間も三時間も一緒に待っていてくれました。彼女とお喋りをしたり歌を歌ったりして過ごす時間はとても楽しく、辛さや寂しさを忘れることができました。彼女といるとお腹のそこ

から笑うことができるので、そういう時間が私の心の支えとなっています。また、部活の仲間は私を励まし、元気づけてくれます。「迷惑かけてごめん」と謝ると、「誰も迷惑だなんて思っていないよ、仲間だからね」と叱られました。

入院中寂しくないようにとプレゼントしてくれたキリンのぬいぐるみと、その首に結ばれた手作りのミサンガを見ると、「待ってるから」と言ってくれた仲間の柔らかい笑顔を思い出します。「戻っていきたい場所で、みんなが待っていてくれる」、そう思うだけでどんなことも頑張れる気がしました。

そして、何よりも家族です。父は忙しい仕事の合間を縫って週に二回、片道二時間かかる病院へ連れて行ってくれます。母は毎日学校まで送り迎えをしてくれます。離れて暮らす姉は、入院中に私の好きなものを持ってお見舞いに来て、話し相手になってくれました。弟は部活で疲れているはずなのに、文句を言いつつも私の分の家の仕事をやってくれます。私が病院の日は、夜遅くまで一人で留守番をしてもらうのですが、少しも寂しいそぶりを見せず、毎朝「いってらっしゃい」と手を振ってくれます。家族みんなが口には出さないけれど心配してくれているのがわかります。私はイライラして、八つ当たりばかりしているのに、それでも話を聞いてくれたり生活の手助けをしてくれる家族の姿に、一人で生きている

訳ではないのだと痛感しました。

たくさんの人が声をかけてくれ、助けの手を差し伸べてくれました。その全ての人たちのおかげで私は前向きに「今」を生きていることができているし、これからもきつと支えられて頑張れるのだと思います。私の周りのみんなに、そしてみんなの優しさに、感謝しても感謝してもしきれません。「ありがとう」と何度言っても足りないぐらいです。

私はみんなのために何が出来るかを考えました。恩返しになるものを探しました。答えは一冊の本が教えてくれました。それは「早く元気になること。治す努力をすること」です。周りの人たちが願ってくれていること、応援してくれていることに全力で応える努力をしなければならぬ、とその本は教えてくれました。

私はケガをして、思い描いていた未来と夢を失いました。しかし、自分を見つめ直すチャンスをもらい、人の優しさと温かさに気付くことができました。常に感謝の気持ち忘れず、笑顔で頑張っていきたいと思います。